

「ソフオニスバ」(又は、打倒されたハンニバル)(四幕)

ナサニエル・リー 著
千 葉 孝 夫 訳

四幕一場

戦の女神ペローナの神殿。

一つの祭壇が示されるが、其処には、その頭部を除いて、すっかり武装した、兵士一名が横たわっている。夫々、その右手には短剣を、左手には香炉を携えた、女祭司アグララヴェ、及び、クマーナ、三脚架の上に立って、登場。

アグラ 我々が、厳肅な儀式を始めるに先立って、
神聖なこの洞穴をば、罪から清めようぞ。

いや畏き祭壇の辺りを歩き回り、
その辺りへ、魔法を撒き散らすがい。

クマー その恐ろしい奉献物をば、こうして、我々は飲み干し、
彼の血で、我々の神殿を汚すのだ。

5

木の葉木菟は、呟声を発して、我々に、「始めよ」と警告しているのだ。

あなたの短剣を、彼の喉に突き立て、
彼に深傷を負わせて、彼の血を啜り、

ぎよつと怯えた彼の靈魂に、経帷子を調べてやるがよい。

アグラ 燃え上がれ、凄まじい炎よ、燃え上がるがよい、
禍いをなす、この生贄をば、灼き尽くすのだ、

彼の遺骨の一部を、我々が採取し、
凝固した燃え殻をも、それと一緒に、掻き集めて、

ペローナ女神に供える、ご馳走が作れるようにね。

クマー 我々が崇める女神様は、ニッコリと微笑んで、仰有ったので
す、「もう終った、戦は終ったのよ、

ローマ軍が、戦いで、勝利を取めたのです。

あの向うの、天界の城の狭間胸壁から、

カルタゴ軍が、駆逐されるのが、私には見えたのです。

彼等は、雪崩が起こったかのように、遁げに遁げ、彼処にいる執政

15

10

官は、

空中の長い通路を通つて、彼等を追跡している。

彼は、敵の將軍を敗走させ、

疾風怒涛の勢いで、敵軍を追い散らしているのよ」とね。

アグラ 私達の女神様は、充分な死者が手に入ることでしょう。

その神殿に、何千名という死者の脂肪を詰め込み、

血塗れの首で、その祭壇を充たし、

何百何千ガロンもの夥しい血を、それに降り注ぐがいい。

25

ハンニバル、マハーバル、及び、ボミルカー、登場。

クマー だけど、ほら、ご覧、一体誰がやつて来たの、何者、あの人

達は、一体何者なの、

私達の秘密に首を突っ込んで、詮索してくる、あの人達はね？

話して、話して頂戴、アグラーヴェ。私は、向うへ行つて来るけれ

ど、

彼等の用向きを聞いておいて頂戴、直に戻つて来ますからね。

預言者らしい昂奮が、私を襲つてきたわ。

私達の女神様は、地下道をうねうねと進まれるし、

神聖な震えが、私の心を膨れあがらせているのですからね。(退場)

アグラ 貴方は、一体如何なお方なのですか？ そして、貴方が、お

知りになりたいのは、一体如何なことなのでしょう？

ハンニ 人々は、この私をば、ローマの恐るべき仇敵の、ハンニバル

と呼んでいるのだ。

幾多の戦闘で、勝つたり負けたりした挙句、

戦死して(この身を滅ぼして)しまうか、我が勝利に、栄冠を頂か

せてやろう、と決意を固めているのだ。

35

30

20

何時の日か、(ローマという)世界の大帝国が、一か八か、それを
決めてくれるに違いない。

だが、神々や、(我が方が、勝利を博することになる)偉大なその

日が、一体何を提供してくれるものか、

最悪のことも覚悟して待つている、この我々は、知りたいものだ

な。

アグラ クマーナは、神聖なその隧道に執着しており、

彼女は、胸を膨らませていたし、女神様は、只今、聖餐を受けてお

いでなのです。

して、今や、彼女は、酒神バッカスの信徒宛らに、熱狂的に振舞つ

ており、

怨霊達と行動を共にして、神聖な垂れ幕を引き千切つているので

す。

神性に充たされて、彼女は、あちこち彷徨い回り、

目を睜つたり、ポカンと大口を開けたり、神聖な垂れ幕に、泡を吹

きかけたり、

熱く火照つた自分の軀に切りつけたり、地面に、腹這いになったり、

唄つたり、踊つたり、黄金製の三脚架を蹴飛ばしたりしているので

す。

クマーナ、その顔を掻き毟つたり、その両腕に短剣を突き刺したり
しながら、登場。妖精達、その後に従つている。

唄う

ポブラの木蔭に、私を横たえるがいい、

如何に激しく燃え盛る火炎も、其処では、私を狼狽させはすまい。

50

45

40

(その私は) 何処か白々と光って流れる小川の畔に横たわり、眠り罌粟の下蔭で、死にかけているのだ。

私は、膨れ上がり、かのテュポールエウスが、嘗てそうだったよりも、巨大になっているのだ。

頑丈な真鍮の帯で、おお、私をぐるぐ／＼巻きにするがいい、私の軀が裂けて、秘密を漏れ出させ、

捌け口が出来たこととて、復讐女神が、抜け出るといけないからね。私は、もうこれ以上、苦しみ悩まされている訳にはいかないし、その心算もないのだ。

私は、怒り狂っている限り、弱くなってしまうけれど、女神様は、より強くなってゆくのだ。

彼女、語りかける

もしも、ハンニバルが、ザーマへと赴くならば、彼の剛勇をば、スキピオは、推称してくれよう。

して、バグラータ近傍の戦野で、千名ものローマ兵達が、戦死することになるう。

貴方は、ご自分の部下の、老練なイタリア軍を率いて、あの執政官をば、足止めさせられよう。

唄う

聞け、聞けがいい、太鼓が鳴り轟いているのだ。

「ど、どん、どんぐ」と、兵士達を戦闘へと呼び出す陣太鼓が。

「トチチテター」と、喇叭も吹き鳴らされるのだ。

今や、今こそ、彼等が押し寄せて来て、両軍入り混じり、てんやわ

んやの大乱闘が繰り拡げられるのだ。

何という大騒ぎ、兵士達が駆けずり廻るのが見られることだろう。

その紋章が壊れた槍の破片が、チリン／＼と音をたて、

両軍の、黄金作りの装具・ピカ／＼に光った、兜の顎当て・剣・丸

盾、及び、短剣が入り混じり、

その勇士が、跳びかかり、その臆病者は、蹠跟めくのだ。

ほら、見るがいい、鞍帯がはち切れ、

その將軍は、落馬するが、

彼は、再び氣力を回復し、

幸運非運に拘らず、

部下の兵士達を繰り出し、

敵軍の真つ只中で、

自分に刃向う神々をば、

彼は、叩つ斬り、切り刻んでのけるのだ。

お止めなさい、女神よ、ご自分の従僕をば、苦しめ悩ますのは、お

止め下さい。

私の肺は、熱狂的な予言をしたこととて、疲れきってしまったので

す。

躍起となつている運命女神達は、私の胸中で、のたうち廻っている

し、

天上の劫火が、ぶる／＼震えている、私の心の琴線を灼いているの

です。

神性を具有する貴女は、何時になつたら、この私を休ませて下さる

のでしよう、

寿命が限られた人間の胸に収めておくには、余りにも大き過ぎる苦

悩を抱えた、この私をね?

アグラ クマーナ殿、結末へとお急ぎなさい。

65

60

55

85

80

75

70

それをし終つたなら、貴女は、安らかさに浸れましょう、それに、快く、爽やかな眠りも味わえますよ、月との境界迄行つたならばね。

90

妖精達の踊り

クマー ほら、ご覧、遙か彼方に、呪うべきアピシニア軍がいて、偏見を抱いた將軍が、砂漠の砂上で、指揮をとっている。

神々よ！ 何と、彼は、自惚れで一杯になっていることか！ 何と、彼は、傲慢不遜な顔つきをしていることだろう！

己が剣の柄頭から、彼は、死神を取つ捉まえたのよ。(退場)

ハンニ ローマ軍が、カルタゴ軍の武力によつて、一敗地に塗れることになるというのに、

95

我がカルタゴが、没落するというのか？ 謎めいたその言葉には、

一体如何な意味が匿されているものかな？

これ程愚かな詩人なら、分かるかも知れぬ。

乃至は、清浄潔白な魔女なら、分かるだろう、地獄の助けを借りずともな。

これ以上のことを、私は、知らねばならぬ。ロザリンダの運命を伝えるのだ。

100

闘いのありとあらゆる損害を生じさせるがよい。

スキピオが死んで、我々の栄光を引き立ててくれるがよいのだ。

予は、軍神マルスが泛べる洪面にも耐えてやるぞ、もしも、愛の神クピドー(キューピッド)が微笑んでくれるものならばな。

アグラ 余りにも好奇心が強過ぎる人間は、一旦知ってしまったこと

は、それ以上捜し求めはず、

貴方の眠りを強奪し、貴方を、ずっと呻き苦しませるかも知れませぬ。

ぬ。

貴方の運命は、再び曇つて、見えるようになってはこないでしょう。余りにも遠過ぎる程迄も、気乗りのしない神々を追いかけては行かないで下さい。

105

無分別にも、亡霊達を敢て追跡する者宛らに、

暫くの間、彼等は、何処か、荒廃した、仄暗い場所へと飛んで行き、洞穴の中を走り抜けたたり、修道院の中で、ずっと彼を追い廻したり、妖精の国中の、彼の目の前で、踊りを踊つてみせたりするのだ。

110

で、遂には、余りに遠く迄(酷い程迄)も追い立て過ぎた為、すっかり蒼白で、悲しみに沈んだ面持ちとなり、

さつと素早く彼の方に向き直るのですが、その愚か者は、気が狂つてしまうのですな。

ボミル 参りましょう、閣下、手前は、懼れ心を抱くことには不慣れですが、

それでも、此処に愚図愚図しているのは、どうも、怖いような気持ちですな。

115

マハー 戦死した死骸の山を、私は、今迄屢々目にしたことがあるし、己が戦斧を揮つて、何百名という敵兵を斃したものだ。

しかし、此処で、私は、動転している。目にするものが、余りにも奇妙な(意外な)ものばかりだからな。

私は、むしろ、敵の投げ槍が、この胸に突き刺さるのを見たいものだ。

ハンニ アグラウヴェ、あなたが信奉するペローナ女神の武技武芸にかけて、私は誓うぞ、

あなたが、私の疑念を晴らしてくれる迄、我が方は、

聖なるこの洞穴から動きはせぬ、とな、たとえ、どの星屑もが、

畏れ多いあんた達の呼び出しを受けて、炎宛らに輝くその天球層

120

(天空) から、はつとして飛び出すにしても、

しつかりと雲にくるまれて、その軌道から

月が滑り降りて来て、この森の中を彷徨うようになるにしても、

あなたの魅力に魅せられて、日輪が溶け、血と化してしまうにして

もな。

下界の人間達の、宿命の奥底迄も測り、

恐るべきあなたの魅力をば、洗い漂い見せてやるがよい。

アグラ ずつしりと重たげな、それ等の木の枝々の下に立っついて下

さい、

私が、命令を下している妖精から、身の安全無事を保つてね。

現われよ、出て来るがいい、彼が心から愛しているあなた、

彼の心は、目に見える恐怖で、動揺しているのですからな。

ロザリント、顔面蒼白になり、胸に傷を負って登場し、坐っていた椅子から立ち上がる。クピドー(キューピッド)二名、降りて来て、嘆きながら、彼女の上に蔽い被さる。

ハンニ それでは、ロザリントは、時ならぬ死を迎えることになるのか？

か？

それは、間違っているし、あの忌々しい詐欺師共は、口を揃えて、

嘘を吐いているのだ。

あなたの宿命に直面するとなれば、我が剣を手にして、私は突っ立

ち、

老練な、常勝の我がイタリア軍の後楯を受けて、

相も変らず、堂々と、凄まじく突進する心算だが、

それは、サグントの町をば、轟音で圧倒することだろう。

その私は、かのトロイアの若き勇士にそっくりに見えることだろう

135

な。

彼を取巻く全世界が、彼を賞讃している間に、彼は、

血潮に彩られ、猛火燃え盛る死闘の真つ只中、夜通し父親を背負っ

て行ったのだ、

逆らう地獄や、最悪の戦の武器兵器をも物ともせずにな。

そのように、私は、愛する女性を両腕に抱きかかえて、運んで行く

ぞ。

ボミル 馬にお乗り下さい、閣下、して、呪われたこの場所をば、お

立ち去り下さい。

出かけて行つて、早速執政官と対面しましょうぞ。

マハー もうこれ以上、呪われたこの魔法使いを信頼して、秘密を

打明けられるのは、お止め下さい。

私が、彼女の軀をば、剣で切り裂くのを、お許し下さい。

さもなくば、彼女の胴体から、魔力を備えた、その首を切り離し、

どす黒いその脳味噌をば、祭壇に供えることをね。

ハンニ 行こうぞ、マハーバル、明日の引き明けと共に、

広漠たる平原上に、我が方の騎兵大隊を集結させよう。

しかし、最初何分間かは、戦闘開始を固辞しよう。

あの執政官が、我が方の軍勢の主力をば、合流させてくれるのを、

我々は見ることになろう、

して、もしも、平等な条件で、和平を取り結ぶのが可能ならば、

カルタゴの為に、私は、我が敵をば、口説く心算だぞ。

ボミル 貴方が、慎重さを選び取られて、用心深く

敵と取引交渉され、巧みに最後の賭けをなさるのが、正当なことで

すな。

ハマー 貴方方の軍勢は、両軍がゲームせねばならぬ、トランプの

カードなのですからな。

155

150

145

140

もしも、出来るものなら、少くとも、損失を蒙らぬよう、それを埋め合わせる（保証する）ようにして下さい。

ハンニ しかし、危険な火炎を浴びて、自惚れ逆上せ上った日神の息

子宛らに、

彼は、万人を支配したい、と熱望しており、

唯独りで、全世界を指揮し、

唯独りで、天を統治し、（父ヘリオスの）太陽の戦車をば、御したい、

と思つたのだ。

あの寛大で、気儘にさせる神宛らに、私は、先ず勧告しよう、

其処を通つて、野心の持主が、遁走する道をば、彼に教えるように、

とね。

もしも、誰の言にも耳を傾けなかつたなら、彼を王座に昇らせるが

いい、

自分を押し拉いでしまうに違いない栄光に、彼を跳びつかせて、

ジョーヴ神宛らに、予は、ピカ／＼光り輝いている、その王座から、

彼を投げ降ろし、

水分の多い空気の中を、シュー／＼音をたてながら、飛ぶ彼を、雲

の中で焼け焦げさせ、

流星宛らに、真つ逆様に、彼を投げ落とすのだ。（一同、退場）

170

スキピオ、登場して、武器を取り上げられたラエリウスと行き逢う。

ヴァッコ、及び、トレベリウスも登場。

スキピオ ラエリウスが、戻つて来て、悲しみに沈んでいるというの

か！ その間の事情を話してみるがいい。

ラエリ 手前がキルタへと派遣されたのは、閣下、余りにも遅き

に失っていましたな。

何しろ、当地から何千歩か参りますと、

手前は、不幸せなあのマシッサ王と行き逢つたのですからな。

手前が見慣れていましたように、武人としての、優雅上品さに装わ

れていた訳ではなく。

トラキアの戦野で、大音声の号令を下していた際のマルス宛らで、

牧草地の只中を、馬を駆つて行く、優しいアドニス宛らに、

雪白の馬に牽かせた馬車に乗り、

多情放逸な狩人という、その恋人に恵まれたウエヌス宛らに、

ソフォニスバが、彼の胸に凭れかかっている、という有様でしたか

らな。

スキピオ それが、彼の誓いなのか？ 我々は、何か新しいやり方を試

みてみなければいかな。

彼が、恥辱を受けた儘、おめおめと生きているよりも、むしろ、死

なせてやるぞ。

ラエリ 暴君のシファックスが、打倒されるや否や、

脅しをかけながら、彼は、ぎよつと怯えているあの町をば、力づく

で奪取しましたが、

其処へ入ると、真つ直ぐ宮殿へと飛んで行きましたものの、

ありとあらゆる己が誓言をさらりと忘れて、彼は、又ぞろ、新たに

恋をしたのです、

つまり、被征服者が、征服者を屈従させたのですな。

要するに、彼女が流す泪や、その美貌が、大いに彼の心を奪つたの

で、

全世界の人々が見守る中で、彼は、彼女と結婚したのですな。

その二人が到着し、今や、この戦野に設営された、

堂々たる大型天幕内に留まっているのです。

スキピオ トレベリウス、行つて、抜け目なく、蠱惑的なあの女性を連

190

185

180

175

れて来てくれ。

あの国王を相手に闘うのを支援すべく、我が軍の護衛隊全員を率いて行くのだ。

して、予は、彼の幕舎で、彼に会う心算だ、と申ししてくれ。

だが、先ず、捕囚として、王妃が、(ローマへと)送られるようになる、と予は、期待しているし、

彼女は、ローマ人の敵なのだ、と彼に伝えるがいい。して、何千人もの人々の

血を流した犠牲として、斃れることになるのだ、ともな。(一同、別々に、退場)

マシニツサ王、及び、ソフォニスバ、登場。

マシニ 私この胸を相手として、全力を挙げて、彼に武装させるが

いい。

断固たる決意を固めて、私は、大変なその試練に耐えようぞ。

私が誓ったことは、あなたの美德廉潔宛らに、渝ることなく続く筈だな。

あなたを、我が心の琴線宛らに、私は、しっかりと我が胸に抱いて

いるぞ。

恋の権化たるあなた！ 完璧な蠱惑の典型よ！

あなたを一目見ただけで、激しい苦悩心労も、この心から追い出され、

神々のありとあらゆる祝福をば、施与分配して貰える想いなのだ。

一体何故、あなたは、震えているのかな？ あなたが、挑発的な

(凶々しい) 懼れに駆られるあまりに、

あなたが、心から喘いだり、泪の一滴も流すようになったりはせぬ

205

ようにしてくれ。

ソフォ ああ、陛下、私は、いつそ、死んでしまい、

そんな心労苦悩からは解放されて、ひんやりと冷たい、私の墓穴に

横たえられた方がましですわ。

私に、むしろ、一万回もの拷問に耐えさせて下さい、

一度でも、ローマの権力に搦め取られる位ならばね。

確かに、貴方は、私を擁護して下さい、と

心から誓って下さいましたわね。

マシニ 私の心の臓から流れ出る血の、最後の一滴迄もな。

さもなくば、何処かの卑怯者に、私は、滅多切りにされてしまい、

私が死にゆく時、犬共や禿鷹共が、私を引き裂いて、貪り喰うがい

いのだ。

投げ矢や、槍や、投げ槍が、ヒュー／＼と飛び交っている只中で、

牝の虎は、強奪された己が仔の復讐をするだろうし、

いとも低劣で、名声などにはお構いなしの田舎者でも、

浅黒く日焼けした、己が恋人を救う為には、命をも危険に晒すこと

だろう、

それなのに、この私が、あなたの為に、この体内の血をば、残らず

流してしまわぬことがあろうか、

いとも優しい幸せの因で、こよなく魅惑的な美德の典型よ？

ソフォ 神々が、貴方を如何なさるお心算なのか、私は存じませんけ

れど、

この私が、最期に近づいているのは、いとも確かなことですわ。

それは、何も、死神の棲処すみかの、漆黒の闇の世界の恐ろしさを、私が、

怖いと感じられる、ということではなく、

屈従束縛が、到底私には耐えられぬ程の重荷になる、ということですわ。

すわ。

225

215

210

220

マシニ あんたの安息を掻き乱す、そんな妄想は、綺麗さっぱりと捨ててしまいい、

あんたの憂愁をば、私のこの胸に投げかけるがいい、私のこの心は、永劫にあんたのものだからな。

ソフォ おお、愛する我が陛下、

もしも、貴方が、それをお破りになるようなことがあったなら——

だけど、貴方は、ご自分のお約束をお守り下さいますわね、ありとあらゆる貴方の誓言をね。ですが、天も、貴方も、一番良くご存じですわね、

或る人々は、ご馳走に飽き飽きするように、己が恋に食傷するし、そうなると、嘗ては、満足を味わっていたというのに、胸が悪くなる程、嫌になってしまうのですわ。

だけど、いざ、私が死んでしまったなら、貴方は、私のことを想い出してくれるでしょうね。

愛している貴方のそのお目から、果てしない、常闇の世界へと移動したなら、

私が今迄愛してきたように、間違ひなく貴方を愛してくれる人は、誰もいなくなってしまうでしょうね。

トレベリウス、登場

トレベ 護衛隊が、外で待ち受けております——陛下、貴方は、王妃様を

お引き渡し下さらなければいけませんぞ、あの方を監禁せよ、という命令を、手前は受けておりますからな。

マシニ 絶対に、彼女に手を触れてはならんぞ、さつさと引退がるがいい。

雷電を遊び、劫火に口付けし、
死神と取っ組み合いをし、不吉で、派手な深紅色にすっかり装われ

悪疫を襲った方が、まだしも、あんたは、安全無事だぞ。(トレベ
リウス、彼女を捉えようと進み出るが、マシニッサ、彼を殺す)

トレベ 私は、成長発展して、頂点に達した所で、それが断ち切られてしまった！ 貴方の敵対を受けるなんて、呪われるがいい！

私には、この世で、未だ為すべき仕事があるというのに、こんな風に死んでしまうとはな！

正当公正なスキピオ様が、私の死の復讐を遂げて下さいませよう。気をおつけになることですな。

正に今、自分が逝こうとしているのが、私には感じられる、一体何処へなのかは、分からぬけれどな。(死ぬ)

マシニ お前の血以外の何ものも、お前の罪を洗い流すことは出来ません。

お前が心に抱いていた怨恨は、一体何を、敢て表明しようとし、拙劣粗雑な手際で、今迄、神々が描いたことがある中で、こよなく美しい傑作をば、余す所なく、

見せびらかそうとしたものだろうか？ お前の苦惱心労は、ここに終ってしまうのだな。

だが、私は、それに振り込んでしまったのだ。それで、今や、安全無事が保たれる如何な望みとて、手近な所にはなくなつたのだ。

しかし、今尚国王であるからには、予は、家来達に付添われた儘で、死ぬる訳だな。

積荷を満載して、長い間荒波に揉まれていた商船が、何処かの岩礁に衝突し、物凄い轟音を上げて、真つ二つに裂けてしまった時、

235

230

240

245

250

先ず、何もかもその中に仕舞っておいた小箱を引つ掴み、
次いで、大胆不敵にも、身を躍らせて、大海に跳び込むような、
気丈勇敢な商人宛らに、

それと同様、私は、己が唯一の宝で、私の全てでもあるあんたを道
連れに、

遂には、夥しい戦死者達の真つ只中で、斃れてしまわなければなら
ないのだな。

あの音が近づいて来るな。此処で、人目につかぬよう、引き退つて
いて、身の安全を守っているがよい。

栄光と、恋とが、これから如何すべきか、を、我々に教えてくれよ
うぞ。(ソフォニスバ、退場)

スキピオ、ラエリウス、ヴァッロ、及び、護衛兵達、登場。

ラエリ トレベリウスが斃されてしまいましたな！ しかも、女のこ
とが理由でね！

我が国の武事武功への恥辱で、名譽面目の掟への屈辱ですな。

一体如何な害毒の炎が、その火花から立ち昇ることでしょうか？
貴方が、峻厳にも、彼の咎落度を懲らしめられるのが、正当なこと
ですぞ。

スキピ だが、マシニッサ、あんたには、不正なやり方で手に入れた、
あんたの恋と、

宿(致) 命的な情事の結実とを、高価に買い取らせてやるからな。

放逸多情な生き方をば、ぬくぬく、うねうねと続け、彼女が発散す
る蠱惑に身を晒すがいい。

軍神マルスにかけて、彼女は、我が方の武事武功への犠牲となるの
だ。

マシニッサ王、スキピオと行き逢う。

マシニ 貴方が、酷く不機嫌でいらつしやるのが、貴方のお顔から窺
われますな。

偉大なスキピオ殿が、お顔を顰められたなら、どえらい危険が迫つ
ている、ということですな。

事実真実をば、私は、正直に申し上げなければなりません、辱め
られた美女、

清浄潔白な、寄り辺ない女性を擁護して、そうした訳ですからな。
スキピ 一体何処へと、あの麗しの扇動者は、遁げてしまったものか
な？

これつきりという程、苛酷な迄にも、我々は、突き進んでやるのだ。
血を流さすべく、彼女を連れ出せ、とあんたに致命を下すぞ。

さもなくば、私は、あんたの軀に、復讐の笞を振るう心算だぞ。

そうなる、己が愛人の所為で、あんたは、身を滅ぼすということ
になるのだからな。

マシニ がつがつした、貪欲な欲びを抱いて、私は、この命をば、貴
方に差し出しますぞ。

もしも、神々にかけて、私の妻を解放する、と貴方がお誓い下さる
ならばね。

スキピ あんたには、彼女故に、死ぬことを許しはせぬし、
彼女の命を助けても、解放して、自由を与えもしはせぬぞ。

あんた故にはなく、祖国ローマの為に、今度の戦は行われたのだ。
あんたは、唯、自発的な志願者としてのみ、それに携わっていたの
だ。

それ故、あんたが、如何な町、乃至は、捕囚をば

265

260

255

265

260

255

285

280

275

270

手中に収めようとも、それ等は悉く、ローマ方のものとなるのだからな。

マシンニ それでは、私は、次のように推断致しますぞ、それを、傲慢不遜とお考えにはなりませんよう、
何しろ、それは、私自身を守ろう、と意図して目論んだものではなく、

清浄潔白な聖女を救うべく、行つたことなのですからな。

多分、輝かしいその玉座から、神々が、滑り降りて来て、

私の肩を持つて、戦闘準備を整えてくれることでしょう。

これ程正當な大義名分の許では、私は、落伍する訳にはいかず、

私と神々とは、貴方方全員を相手にして、最後迄闘い抜く心算です

からな。

スキピ あなたは、己が情欲に耽るのが、偉大で立派な行為だ、と考
えておるな。

死神が、あなたに血を流させて、その熱狂を冷まさせてくれるに決
まっているぞ。

この私を相手に、抗争するとなると、あなたは、宿命に対して、闘
いを仕掛ける、ということになるな。

しかし、私は、惻隱の情を見せてやろうぞ。彼を、生け捕りにする
がよい。

マシンニ 不名誉にも、貴方は、戦勝を博されましたな、

貴方のその胸板をば、臆病な私の腕は、敢て突き破れなかつたので
すから。

強烈な彼女の蠱惑に、我が心が刺戟を受けていたとは申せ、
私の武力を上回る、武力の持主（たる貴方）を目の前にしては、気
が臆してしまいましたのね。

又、貴方は、私が、心の底から愛していた宝物には、未だお手が届

300

きますまい、

私の軀が、こうして、狭いこの裂け目を塞いでおりますからな。
して、誰か敢て――

向う見ずにも、禁断のこの地に足を踏み入れようとする者があつた
なら、

私は、その者の魂を引つ掴み、彼を蹴飛ばして、死者の仲間入りを
させてやりますぞ。

奥から、喇叭の響き聞こえてきて、メナンダー、登場。

305

スキピ あの悲しげな音には、一体如何な意味が含まれているのだろ
うか、陰に籠つたあの音色は、

重々しい恐怖を感じさせて、私の思考を混乱させているのだがな？

メナン おお、尊敬すべき閣下！

スキピ 何と、武人よ、すっかり泣に泣いているのか？

メナン 悲歎そのものが、これから、物言わぬ哀悼者宛らに見えてき
ますぞ。

310

マッシーナ王子様が、殺されてしまいましたぞ。ほら、ご覧下さい、
彼処に、枯れ萎れておいでなのです。

貴方が、目をかけておられた、希望の泉で、戦の寵児でもあり、
貴方と交渉を重ねていた、あの眉目秀麗な、囚われの身の若者です
がな。

あの方は、カルタゴ軍の陣営に仕えていたのです。
其処で、ハンニバルが、彼の美貌に猜疑心を抱いて、
彼を拘束したのですが、その氏素性が知られると、

直ちに、縄目を解かれたのです。しかし、それから、絶望の念が、
彼の心中に湧き起こつたのですな、

315

栄光への絶望と、恋への絶望がね。

王家のその若者が、性急にもそれを考量し、非運が、ぶつくと零したくなるような不平感を抱いて、押し寄せて来るのに、暫し手間取っていた時、

その衣装の下から、彼は、人に気付かれることなく、短剣を取り出し、

己が心の臓へと、心殺のその刃を突き立てたのであります。

スキピ 見るがいい、怒り狂う恋の、いとも恐ろしい結末をな！

だがな、マシニツサ、あんたは、後悔しはせぬのかな？

見るがいい、あんたが遺していった担保物が、あんたの怠慢の所為で、

天の気高い正義に照らして、破滅へと導かれたのだからな。

マシニ 今迄、人間が、これ程惨めになりながら、しかも、敢て生き

よう、としたことがあっただろうか？

しかし、私は、造化を相手にしては、一滴の泪も流しはしませんぞ。破産者同然になってしまったからには、私は、我が物ならぬ物でも、

惜しみなく浪費しますぞ、

私の悲歎や、恋心の貯えは、残らず貴方のものなのですからな。

スキピ 王子の遺骸をば、彼の目に触れぬ所へと移動させるがよい、

悲歎が昂じて、ぎよつと怯えるあまりに、狂乱状態となつてしまつ

てはいけないからな。

しかし、もしも、あんたが彼女を連れて来てくれるならば、予は、

熱情が燃え上つたあまりに見えられた、あの大胆不敵な無鉄砲ぶり

は、忘れてしまうことにしようぞ。

あんたの栄光をも、月桂冠を添えて、予は、高く掲げ、

当然の賛辞を呈して、あんたの雄々しい行為を称揚し、

あんたの名譽面目の顕彰碑をば、私のこの右手が築いて差し上げよ

335

う。

一体何故、あんたは、哭いておるのかな？

マシニ 私は、敢てお言葉に従うことは出来ませんからな。

いや、貴方、私は、愛する者を裏切れることは、如何しても出来ないのです、

貴方は、高潔この上ないやり方で、私を感動させて下さったのですけれどね。

スキピ あんたは、約束も、脅しをも、拒否出来るというのかな？

マシニ 死、乃至は、もつと酷いものだけを、貴方は、私に「選べ」

とお言いつけになるだけでいいのですぞ。

スキピ あんたが愛する女性を連れて来るがいい、すれば、あんたは、

のうのうと生きていられるからな。

マシニ そんなものが、「生きている」ということになりませんか？

貴方のご意図に副つて、行動なさつて下さい。滅ぼすのです。

貴方方の投げ槍の切っ先をば、洗い潔い、私のこの胸板にお向けになるが宜しい。

ですが、その胸から、愛する者を取り上げないで頂きたいものですが、その胸から、愛する者を取り上げないで頂きたいものですが、

スキピ 人に命令を下すことの出来るこの私が、こうして、徒らに、

懇願を重ねなければならぬのか？

マシニ 頑固一徹な私の心は、唯もう死神だけが抑えつけられるのですぞ。

スキピ それでは、あんたが、それ程少しも怖がつてはおらぬという、

その死神を捉えてやるがよい。

350

ソフォニスバ、登場。

340

345

ソフォ 待つて、暴君、お待ちなさい。貴方は、先ず、この私を打ち殺してくれなければいけませんわ。

さあ、貴方の名剣で、私のこの胸を切り裂き、激しく動悸を打っている、私の心の臓を、誇り高い貴方の兜の前立てに取り付け、

それを、貴方の剛勇の戦利品として、其処からぶら下がらせ、驚異の目を睜っている、世界中の人々に、それを見せてやつて下さい、

雄々しい人々が、拳つて、あの戦勝者を感嘆賛美している間、愚か者達以外の誰も、あの戦勝を嘆き悲しんだりすることのないようにね。

あんな偉大な征服者は、ほんの一撃を加えるだけで、かのヘラクレスその人さえも、打ち負かすことが出来ましょう。

おお、天よ！ 彼は、敢て、（私は、一体何と言えぱいいものやら、如何な言葉を使えば、彼の心の、凄まじい迄の崇高さをば、言い表わせるのでしょうか？）

カツと憤激したあまりに、彼は、敢て一人の女性をば、殺してしまつたのですからね。

スキピ ご婦人方が、叱り罵っている時には、武人たる者は、沈黙しなければなりませんからな。

それに、私には、あれこれ論あやまちっている暇など全くないのです。

かのヘレネが、トロイアに破滅を齎あづかしたように、貴女が何処へお出でになろうとも、貴女の目が、破滅を投げかけるのですな。

一体何時になつたら、蠱惑的な貴女の渴きは、人の血に飽き飽きすることになるのでしょうかかな？

二人の国王をば、かのギリシアの美女同様、貴女は、滅ぼしてし

365

360

355

まつたのですぞ。

如何程誇り高かろうとも、貴女は、ローマへと引つ立てられ、其処にて、如何な魔術を使われようと、貴女は、首を刎ねられることになるのですからな。

ソフォ 貴方の脅しをずつと続け、暴力に訴える、貴方のやり口を、追求なさるがいいわ。

残虐な貴方の願望を享受なさい、猛虎よ、そうなさるがいいのです。野蛮人よ、何しろ、貴方は、ローマでお生れになった訳ではありませんからね。

（私のような）こんな惨めな者が、そのローマの栄光を身に纏っている筈はありませんわ、

生贄になるべく、盛装している時でもなかつたらね。

貴方と較べれば、ムーア人や、ゴート人の方が、まだしも文明開化していると言えますわね。

貴方のお腹一杯に詰め込みなさい、サトゥルヌスよ、この私の肉を、貴方の食べ物になさるがいいわ。

そして、王妃の血を飲んで、酔つ払つたなら、お強くなるがいいわ。

マシニ 万事巧くゆくことだろうて。比類ない麗しの人よ、お退がりなさい。

消えかけている炎に、新たに油を注ぐようなことはせぬ方が宜しい。

ソフォ 貴方と、天とに対して、私は、心から、ずつとお辞儀をしていなければいけませんわね。

執政官殿、私は、今ではもう、貴方に腹を立ててはおりませんわ。

スキピ ご覧なさい、手に負えぬ王侯よ、如何程た易く、

王家の出のこの仇敵をば、もしも、我々がそうしたい、と思えば、

380

375

370

捉えられるものかをね。

しかし、ザーマ⁽⁴²⁾にて、戦の命運が如何成りゆくものか、予が承知するようになる迄、

彼を勝手に解放しはせぬ、という貴方の約束に基いて、

予は、貴方の幕舎内に、彼女が留まることを許可しませぬ。

ですが、おお、我が友人味方よ、不名誉なその鉄鎖を断ち切り、

私への、あんたの信頼をば、保つことが出来、あんたの心をば、あ

の呪うべき

女魔法使いから解放させられる、何か巧い方法を見つけられるがよ

い。(退場)

マシニ おお、いとも厳格な名誉面目よ！ それでは、我々は、お別

れしなければならぬのですかな！

悲歎苦悩を買い入れるべく、ありとあらゆる人生の愉悅をば、喪つ

てしまうことになるのか！

メナン もしも、彼女が亡くなってしまうたら、貴方の栄光は、確固

たるものになるのですぞ。

マシニ だが、そうなたたなら、私は、惨めなこの生を、耐え忍ぶこ

とが出来ものだろうか？

生きている彼女もいない、となつたらね？(先刻の執政官の)あの

申し出を拒否するのは、致命的なことだし、

もしも、私が、愛する女性を選んだなら、栄光が、私を破滅させて

しまうのだ。

それを助かる途は、何かないものかな、メナンダー？

メナン 天の悪戯なのですな、

船団が、一千度もの、嵐の海での航海という危険を切り抜けてきた

拳句、

折角辿り着いた港内で、岩礁に乗り上げた時、

上陸してから味わえる至福を待望しながら、とどの詰まりは、難破してしまう、ということはずね。

マシニ それは、恰も、逆巻く怒濤を切り抜ける、という危険を逃れ

た拳句、ぽつんと一つ海上に泛ぶ、

何処か岩だらけの孤島に辿り着き、其処で、今迄にもまして、惨め

に暮す人みたいなものだな。

半ば飢えかけて、彼は、突兀^{とつとつ}たる岩頭に立ちつくし、

呼びかける彼の声も届かぬ儘、哭き濡れた目で、

人々が陸を歩いている、遠くの岸辺を打ち眺め、

溜息を吐きながら、彼は、胸一杯に風を吸い込み、辺りを見廻して、

飢え死にするか、溺れ死にするか、の何れかを選ばねばならぬ、と

いう、心鬱^{ふさ}ぐ己が立場を嘆き悲しむのだな。(二回、退場)